

第 81 回横須賀市環境審議会 議事録

1 日 時

令和6年3月11日(月) 10時00分から11時45分まで

2 場 所

横須賀市役所消防局庁舎4階 災害対策本部室(We b併用)

3 出席者

(1) 環境審議会委員(13名)

奥委員(委員長)、飯島委員、**今井委員**、小原委員、**寛委員**、川久保委員、木本委員、**工藤委員**、**島野委員**、高梨委員、林委員、松本委員、松行委員

※太字は会場での参加委員、それ以外はリモートでの参加委員

(2) 事務局(環境政策課)職員(4名)

佐藤課長、大野田主査、池田、中村

(3) 関係職員(8名)

[環 境 部] 山口部長

環境保全課: 秋澤課長

[経 営 企 画 部] 都市戦略課: 吉田課長、林主査、天野担当

[建 設 部] 自然環境・河川課: 引本課長、内田主査、森塚担当

4 傍聴者

1名

5 開 会

(1) 会議資料の確認

(2) 定足数について

委員18名中、13名の出席により定足数を満たしているため会議が成立することを報告

(3) 会議の進め方についての説明(会場参加委員及びリモート参加委員)

6 議 事

【議題1】

「ゼロカーボンシティよこすか2050アクションプラン」見直し(案)及び答申(案)について

事務局から「ゼロカーボンシティよこすか2050アクションプラン」見直し(案)の説明、温暖化対策推進部会の松本部長から2月28日に開催した第17回横須賀市環境審議会温暖化対策推進部会の報告及び答申(案)の説明後、質疑

■委員長

松本部長をはじめ、温暖化対策推進部会委員の皆様には大変お忙しい中ご審議と答申案をまとめていただき、感謝申し上げます。

ただ今、説明があった内容についてご意見・ご質問等をいただきたいと思うがいかがか。

■木本委員

今、話のあった答申案について、より意欲的に取り組むという観点で具体的な施策として照明のLED化による削減という話が出ているが、市の財政をあまり組み替えることなく実現できるという見通しがあることを事務局から伺っている。

そうなる、できるだろうということがほぼ分かっているので、意欲的にということであれば、例えば、計画内の省エネ推進の項目で、全ての公共施設のLED化を2029年度の目標年度に100%実施するというように具体的に記載する。アクションプランの中では「検討する」という内容が多く、もちろん100%実施できない、場所によって必ず成功実現できるとは限らないケースもたくさんあるので、なかなか書ききれない部分もあると思うが、より意欲的にということであれば、できれば色々なところで目標値をきちっと定められるものについては具体的な数字を入れて計画を立てた方がよい。

■委員長

今後、ゼロカーボンシティよこすか2050アクションプランアクションプランの中に、より具体的な取り組みとその目標値までしっかり落とし込んでいった方がいいのではないかとのご意見か。

■木本委員

今回修正する部分があるので、その中で併せて修正した方がよいのではと思い、意見させていただいた。

■委員長

ただ今のご意見に対して、事務局はいかがか。

■都市戦略課長

ご意見のとおり、現在、照明のLED化については、数値目標という形でアクションプランに盛り込んでいない。今回、やれるという見込みのもとに根拠として出させていただいた部分もあるので、その姿勢をしっかり見せるためにも、目標を計画に入れていきたい。

2029年度までに100%の公共施設に、できる限り、できる施設にという形になるかとは思いますが、そのような形で、数値目標も併せてアクションプランに盛り込んでいきたい。

■委員長

木本委員、よろしいか。

■木本委員

よろしくお願ひしたい。

■委員長

事務局としては、目標値の見直しと併せて、実現するための具体策とそれに係る目標についても盛り込んでいくという回答か。

■都市戦略課長

そのとおりである。

■飯島委員

答申案までのプロセス、数値目標等含め異論ない。

その中で、部会で出た意見の中に「市民・企業の参考となるよう積極的な情報公開」とあり、これは非常に重要だと考えている。文面化するかどうかは別としても、今後の意識共有の中で、これをぜひ大切にしていきたい。自治体に任せておけばいいという話ではなく、やはり市民なりに我が事として波及していくことが大事であり、そういうことも含めた情報公開、さらに言うと、SDGs など色々な目標とどう関連してるのかということとは意外と市民に浸透していない。そういうところを説明してあげるような、理解を進めていくような情報公開も含めて、この数値を実現していくプロセスをぜひ共有していきたい。

■委員長

情報公開、情報共有の今後の在り方について、重要なお意見だと思うが、事務局はいかがか。

■都市戦略課長

部会でも出たご意見であり、とても重要なお意見だと事務局でも考えている。

行政はそのような情報共有や啓発周知みたいところがすごく不得手だが、ご意見のとおり、このゼロカーボンシティを実現するためには、行政だけが頑張っても実現できない。

今回の目標値の見直しは市役所事務事業編ということで市役所の1事業所としての取り組みだけだが、併せて、市域全体をゼロカーボンシティにしなければいけないというところでは、委員のご意見のとおり、市民・企業がそれぞれ自分ごととして取り組んでいただかなければ実現できない。

色々な手法があるかと思うので、あらゆる手法を駆使し、機会を捉えて積極的に、ブッシュ型で情報を出していきたいと考えている。

■飯島委員

よろしくお願ひしたい。

■川久保委員

答申など今回の案については賛同する。より高みを目指すということで素晴らしい方向性だと認識している。一方で、一点だけ、中身を変えてほしいということではなく、今後留意しておくべきことを共有しておく必要がある。

資料5の「3. 現状の主な取り組み」で(1)から(4)を説明いただいたが、再エネ電力の導入の割合が結構高く、5,200トンとかなり大きな割合を占めているように見える。再エネ電力は導入しないより絶対導入する方が良いため、これは素晴らしい取り組みではあるが、今、かなり再エネ電力の需要が高まっており、価格が上がっていく傾向にある。

このまま再エネ電力を毎年買い続けると、当然、費用負担がかなり大きくなるので、場合によってはそんなにお金が出せない、買えないとなり、再エネ電力の割合が下がる可能性も無くはない。

これは横須賀市の考え次第であり、いくら高騰しようが買い続けるという方針があるなら問題ないが、そのような所謂リスクもあるので、できれば再エネ電力で相殺するよりも省エネ、先ほどハード・ソフトの両面でという話もあったが、そちらの比重を少しでも高めておくことで、再エネ電力の価格高騰リスクを下げるのが可能なので、そのあたりを留意しておいていただけるとありがたい。

繰り返しになるが、何か具体的に直してほしいということではなく、将来に向けてそういう留意を課内やこの審議会内で共有しておきたいと思い、発言させていただいた。

■委員長

今後に向けての留意点ということで、非常に重要な視点である。ぜひ心に留めて、具体的に推進を図るに当たっても省エネというのは最初に徹底的に取り組むべきところであり、それをした上で、リスクヘッジも念頭に置きながら対応していただきたいというご意見である。

他にいかがか。

■算委員

ただ今の意見と類似しているが、令和6年度予算においてこれを行うということで、令和5年度から予想できて盛り込んでいるかもしれないが、予算を増やすことによって、どこかにしわ寄せがいくのではないかと少し懸念している。

例えば、子育てや高齢者・障害者の支援の方の予算が減ってしまうなど、予算といっても税金であり、昨今の人口減等々、ゼロカーボンシティになるというのは大変いいことだと思うが、ない袖は振れないようなことにならないかと心配している。

■都市戦略課長

今回、削減目標を上方修正する根拠として2点挙げさせていただいた。

1点目はLED化、2点目は上下水道局のパネルの設置だが、この部分については、経費は純増をさせないように取り組みを進めたいと考えている。

LED化を行うと、電力使用量が70%くらい減る。LED化することによって当然工事費等々のお金がかかるが、通常の電気代が下がるので、その範囲内でLEDに取り替えていきたいと考えている。

よって、単年度で全部のLEDを変えていくペースと、この削減のペースではなかなか合わないの
で、10年スパンぐらいで投資・回収していくような形になるかと思うが、それに関しては、中長期的には純増なしでペイできると考えている。

また、太陽光パネルも同様で、太陽光パネルを設置することによって自家消費する電力がその場で生まれるので、今まで電気を買っていた費用をパネルの設置代に振り替えることにより、お金をかけずにパネルを設置していく、その範囲内でパネルを設置していくことができる。現在、他の施設もそのような形で進めているので、それであれば1点目・2点目ともに、新たな財政負担や財政出動なしで進められると考えている。

先ほどの川久保委員のご意見のように、再エネ電力の導入の場合、経費は純増してしまうので、ご意見のとおり、創エネ・省エネの部分を先行し、より多く実施することによって、この部分をできるだけ少なくした方が、財政的にはリスクヘッジにも繋がると思うので、この点は十分に注意しながら進めていきたい。

■算委員

初期投資のお金はかかるが、ランニングコストで減っていくということで理解した。

■高梨委員

今回の削減目標の引き上げについて異論はないが、LED化の問題は、これまで使っていた照明器具を変えていかなくてはならないが、そもそも蛍光灯自体がもう国内生産が終わっており、新しい商品に当然置き換わってくるものがこれからもたくさん出てくる。

すると、先ほどの再エネの話もそうだが、コストの問題も出てくるがコスト以前の問題として、そもそも市場にそういうものがなくなってしまうというようなケースがこれからたくさん出てきた時に、削減目標を定期的に見直していくような仕組みというのを計画のマネジメントや進行管理の中で考えていかなければいけないと感じた。

■委員長

定期的な、もしくは適宜見直しを行っていく必要性について、事務局いかがか。

■都市戦略課長

ご意見のとおり、2027年で輸入も禁止され、製造業も今2社ほどしかいないが、そのうちの1社はもう作らないということで、残存で管理している分しか物がなく、実際、交換ができないという状況にもなってくるので、LED化については一刻も早く進めていかなければいけないと考えている。

これに関わらず、他の指標についても、できるだけ積極的に加速度をつけて進めていかないと、おそらく何か少しずれた瞬間にこの目標も達成できないという事もあるので、ぜひこの審議会の中で、委員の皆様から適宜ご指摘をいただきながら、計画については毎年度の実績報告も出させていただくので、見直しをかけていきたい。

■高梨委員

私が申し上げたかったことは何かというと、計画中の進行管理、マネジメントとしてこのような事態がこれからも度々起こってくるとすると、一つの事象ごとに対応していくというのではなく、定期的に変えていくような仕組みにした方がいいんじゃないかという趣旨で申し上げた。

時期はいつがいいのかというのは、また色々な議論があると思う。

■委員長

これまでも計画期間の中間で見直しをかけていくということはやってきたと思うが、そのスパンを今後どの程度で考えていけばいいのかというのは、確かに状況の変化が激しくなっている昨今においては、また状況を見ながらだとは思いますが、考えておく必要があると思う。

今日、結論が出せるという話ではないので、心に留めておいていただき、今後の課題として、見直し時期についても検討させていただきたい。

■高梨委員

よろしく願いたい。

■委員長

他はいかがか。

今、5人からご意見いただいたが、その中で今回の資料6に当たる答申案に関連するご意見としては、木本委員の「具体的な取り組みとそれに係る目標というものを、この見直しの際に、しっかりとプランの中に入れていくべきではないか」というご意見。それから飯島委員の「市が範を示す

ということであれば、その取り組みについての情報共有、情報提供についてもしっかりとしていくべきではないか」というご意見。この2つのご意見はおそらく答申案に係るところかと整理した。

木本委員のご意見については、資料6の「2 考え方」(1)で読み込めるか、表現されているかといえはされているかもしれないが、「ハード・ソフトの両面から取り組み、より高みを目指す目標を」の後に例えば「“具体策とともに”設定すること」など、言葉を補うことでより木本委員のお考えも明確になるかと思う。このように修正するかどうか。

飯島委員のご意見については、資料6の「2 考え方」(2)の「スピード感をもって計画的に進めていくための意欲的な目標を設定“するとともに、市の取り組みに関する情報を市民・事業者と共有すること”」など、情報共有についての言葉を入れていただくと飯島委員のご意見を反映できるかと思う。事務局の方でどのように整理するか、説明可能であればお願いしたい。

■都市戦略課長

答申案への盛り込みやご意見の反映は、ご意見のとおり、すべてこちらに盛り込むのが良いと考えているが、どのような形で盛り込むかという文案については、作成後に整合性を取るため、審議を続けていただく間に事務局の方で修正案を作らせていただき、後ほどまたご説明させていただくという形でいかがか。

■委員長

それでは、そのようにさせていただくということで、委員の皆様、いかがか。

(1)と(2)の後ろの方に修正を加えていただき、木本委員と飯島委員のご意見の趣旨が反映されるような見直しをしていただくということで、私の方からすぐに案がお示しできなかったため事務局にしっかりと検討していただいたものを後でまたご提示いただきたいと思いますと思うが、それによろしいか。

■飯島委員

よろしくをお願いしたい。

■木本委員

よろしくをお願いしたい。

■委員長

他の委員もよろしいか。

それでは、事務局は修正案を作成していただくようお願いしたい。

■都市戦略課長

承知した。

■委員長

それでは、ゼロカーボンシティよこすか2050アクションプランの見直し案については、答申案の数値目標の引き上げについてはご了承をいただけるということでよろしいか。

そして答申の修正については後ほどまた示していただくので、その時にご確認いただき、改めてご了承いただくという形にさせていただく。

それでは次の議題に入るが、11：45になったら、会議を一旦止めて答申を優先させていただくということになるため、ご了承いただきたい。

その前までに事務局の方で答申の修正案を作成し、出来上がったらお声掛けいただきたい。

■都市戦略課長

承知した。

【議題2】令和4年度年次報告書（案）について

①横須賀市環境基本計画 2030

②ゼロカーボンシティよこすか 2050 アクションプラン

③横須賀市みどりの基本計画

事務局から、各計画の令和4年度年次報告書（案）を示すとともに、素案へのご意見と対応等について説明し、質疑応答を行った。質疑応答の内容については以下のとおり。

■委員長

ただ今、事務局から3つの計画の年次報告書の修正内容を中心に説明があった。ご意見・ご質問等をいただきたいと思うがいかがか。

■小原委員

環境基本計画年次報告書の修正案について、前回、久里浜石炭火力発電所を市の排出量から除外するという事とその理由について記載をお願いし、16ページの方に記載していただいた。「エネルギー転換部門については、市民・事業者等の排出削減の取り組みを反映することや、他中核市の取り扱いなどを総合的に勘案し、計画には算入していませんが～」と書いていただいたが、玉虫色で、理解できないのではないかという印象が強い。そもそも、市内で一番CO2排出量が多い発電所の排出量を差し引くということが、排出削減の取り組みにおいて正しいことなのか、市民の理解を得られるのかということは置いておいて、文章として理解しづらいなと思った。他の自治体はどうしているのか調べたところ、横須賀市と同じように火力発電所とごみ処理場のある東京都品川区は「産業と廃棄物の両部門に補正を加え、CO2排出量を差し引いています。理由は以下の2つ。火力発電所で発電した電気は区外でも使用されている。清掃工場では区外からの廃棄物も処理している」とはっきり書いてある。もう少しわかりやすい表記にならないのか、お聞きしたい。

■委員長

文章が分かりにくいのではないかとのご指摘だが、事務局いかがか。

■環境政策課主査

表記が難しい部分ではあると思うが、ご指摘のとおり、一般の市民の方々がご覧いただいて分かりづらいというところは率直なご意見かと思うので、持ち帰らせていただいて、表記等を検討させていただきます。

■委員長

事務局で改めて見直していただくということによろしいか。

■小原委員

よろしくお願ひしたい。

■委員長

他にいかがか。

今のご意見については、より分かりやすい文章に見直しをしていただくということにし、それ以外の点については事務局の方でも前回皆様から頂いたご意見を踏まえて適宜ご対応いただいているかと思うので、それによろしいか。

それでは、特に他にご意見ご質問ないようなので、事務局の方で最終的な年次報告書の作成作業を進めていただくようお願ひしたい。

■事務局

承知した。

委員長、先ほどの答申案の修正ができたので、議題1の審議に戻っていただきたい。

■委員長

それでは、議題2については以上とし、議題1の答申案に戻らせていただく。

再度、【議題1】

**「ゼロカーボンシティよこすか2050アクションプラン」見直し（案）及び答申（案）について
（答申の修正案についての説明）**

■委員長

今、事務局に作成いただいた修正案を投影しているので、内容について説明をお願ひしたい。

■都市戦略課長

色々ご意見いただき感謝申し上げます。

まず、木本委員からご意見のあったLED化について、今回お示しした内容はLED化とパネルの2点だが、個別の名前を出すのは少し変なので、2点を合わせて「具体的な取り組み」ということで、「2 考え方」（1）に追記した。

また、飯島委員からのご意見の「市民・企業の皆様方への情報提供」という部分について、（2）に合わせる方法もあるかと考えたが、皆様方からもここはすごく重要だというご意見があったことや、（2）にくっつけてしまうと一つのところが長くなってしまうので、切り離した方が分かりやすいことから、（3）として独立して切り離す形とした。我が事として捉えてもらうという点が重要なので、前段部分にそれをつけた上で、積極的に情報共有していくというような形の文章にしたためさせていただいたので、ご意見を伺いたい。

■委員長

今、修正案を示していただいているが、(2)の最後の部分、「目標を設定すること」の「する」が抜けているので入れていただきたい。

[画面投影している修正案を事務局がその場で修正]

■委員長

そして、(1)は「具体策とともに」を入れていただき、(3)は一つ文章を起こした形になっているが、こちらについてはいかがか。

■飯島委員

(3)という形で項目まで起こしていただき、大変分かりやすくなった。

■木本委員

問題ない。

■委員長

(3)の「温暖化」は「地球温暖化」に統一できるか。

[画面投影している修正案を事務局がその場で修正]

■委員長

これで大丈夫か。

特に異論ないようであれば、こちらで答申案は固めさせていただくが、よろしいか。

それでは、これでご了承いただいたということにさせていただき、ゼロカーボンシティよこすか2050アクションプランの見直しについては、この答申書を環境部長にお渡しする。

■事務局

特にご議論ないようであれば答申可能だが、答申書等の準備のため、少々お時間をいただきたい。

■委員長

それでは、本日の議事はこれで終了となるが、答申書を用意していただくための時間が必要ということで、答申前に休憩を挟むこととし、11時30分に再開とする。11時30分に再度お集まりいただくということをお願いしたい。

[11時23分中断]

[11時30分再開]

7 答 申

「ゼロカーボンシティよこすか2050アクションプラン」の見直しについて、委員長から市長（市長代理：環境部長）へ答申

8 その他

■都市戦略課ゼロカーボン担当主査

(1) 再エネ促進区域の設定について報告・連絡

新規での再エネ導入の促進を積極的に効果的に進めていくため、環境省では自治体ごとに設定できる再エネ促進区域という制度を定めており、本市も再エネ促進区域の設定を検討している。現在は、まだ具体的な検討が進んでいないので、環境審議会で実際にご審議いただくのは来年度になる予定。今後のスケジュールとして、計画中間見直しとともに令和6年10月頃に諮問し、令和7年10月頃に答申、令和8年3月に計画改定及び促進区域の設定の完了を想定している。具体的な内容は諮問の際に併せてお示しする。

■事務局

以下の3点について事務局から連絡

(1) 次回の環境審議会の開催日程について

今年度は今回が最後の開催となり、次回は令和6年6月～7月頃に開催を予定している。日程については4月に改めて委員に確認するため、日程調整にご協力をお願いしたい。

(2) 年次報告書について

本日いただいたご意見を踏まえ事務局で最終調整を行い、3月下旬に公表を予定している。

(3) 市役所北口駐車場利用の駐車券の処理について

9 閉会

■委員長

それでは、第81回横須賀市環境審議会を終了する。